

第1章 総括

第1節 令和3年度事業運営の特徴と課題

1. 各介護保険事業利用率の状況

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護老人 福祉施設	R3	97.6	98.3	97.6	95.9	97.0	99.1	97.6	98.9	99.4	99.4	98.2	96.1	97.9%
	R2	98.9	96.6	96.4	96.8	97.1	96.2	98.5	96.1	98.6	98.6	98.5	98.4	97.6%
短期入所 生活介護	R3	104.3	111.9	101.7	117.1	114.5	91.0	99.0	95.7	99.7	83.2	108.9	17.1	95.3%
	R2	97.7	101.3	98.0	102.9	111.9	104.0	96.5	120.3	104.8	105.2	108.6	96.8	103.9%
特養+短期 (施設計)	R3	98.2	99.6	98.0	98.0	98.7	98.3	97.7	98.6	99.4	97.9	99.2	88.5	97.7%
	R2	98.8	97.1	96.6	97.4	98.5	97.0	98.3	98.5	99.2	99.2	99.5	98.2	98.2%
通所介護	R3	71.5	70.7	70.4	73.1	69.1	69.6	73.3	74.4	69.1	68.4	65.5	68.8	70.3%
	R2	64.7	66.2	74.5	77.6	79.1	80.7	80.9	77.1	75.8	75.3	76.1	71.1	74.9%
総合事業	R3	82.5	90.0	87.5	92.5	85.0	92.5	87.5	95.0	90.0	80.0	77.5	82.5	86.9%
	R2	55.0	57.5	67.5	75.0	75.0	87.5	92.5	90.0	85.0	77.5	80.0	77.5	76.7%
地域包括 (介護予防)	R3	166	164	166	161	163	163	157	159	164	167	170	169	164件
	R2	156	165	168	165	165	166	170	172	165	163	160	160	164件
総合事業 プラン	R3	105	104	104	113	112	116	116	119	113	108	106	105	110件
	R2	96	93	106	103	107	107	105	107	106	97	100	101	102件
訪問介護	R3	756.8	701.4	715.3	734.0	694.8	699.4	705.4	727.8	676.1	608.5	618.5	728.9	697.2h
	R2	671.1	643.8	690.8	716.9	660.4	697.3	724.9	690.1	655.1	616.1	662.8	776.1	683.8h
総合事業	R3	331.0	309.5	308.0	304.5	292.0	292.3	305.8	311.3	317.8	274.0	286.0	316.5	304.0h
	R2	340.8	380.0	368.5	384.8	356.8	372.8	376.5	353.5	378.0	318.0	300.0	328.5	354.8h
訪問計	R3	1087.8	1010.9	1023.3	1038.5	986.8	991.7	1011.2	1039.0	993.9	882.5	904.5	1045.4	1001.3h
	R2	1011.8	1023.8	1059.3	1101.6	1017.2	1070.1	1101.4	1043.6	1033.1	934.1	962.8	1104.6	1038.6h
居宅介護 支援	R3	174	176	172	174	172	165	161	164	161	156	151	151	161件
	R2	149	157	151	155	160	159	163	162	161	168	172	175	165件
予防給付 総合事業	R3	26	26	23	23	24	24	24	25	24	22	24	23	24件
	R2	22	22	26	27	27	26	27	27	26	24	24	25	25件

※介護老人福祉施設以外の事業においては介護予防（総合事業）の事業も併せて実施。

※訪問介護の数字は、派遣時間数、居宅介護支援及び地域包括の数字は、ケアプラン作成件数を表示。

1. 令和3年度の運営状況の特徴と次年度へ向けた課題

つきみの園グループは職員の退職も少なく、職員は安定しています。産休や育児休暇を取得する職員も多く、また、障害者雇用についても安心して働ける職場として取り組みました。

新型コロナウイルス感染症流行2年目となり、どの部署においても職員の身近な方が陽性者あるいは濃厚接触者となり、または職員のお子さんが通う保育園や学校等がお休みになり、職員が連続した日数でお休みするなど、年間通して職員が満足に働けない状態が前年度と比べて多くみられました。

感染予防対策の一環として、前年度と同様にご家族の面会やボランティア活動の中止、出入り業者の制限等、各方面の方々にご協力いただきました。

令和4年3月、施設内で初めて特養入所者の方が新型コロナウイルス感染症陽性となり、クラスターが発生しました。高齢者施設での陽性者は入院が原則ですが、この時期、東京都では感染者が増加し入院には

時間を要したことから、嘱託医、保健所等の指示をいただきながら、陽性者（1名を除き）を施設内で隔離しながら看護、介護することとなり、つきみの園グループ全体で協力しあいながら対応いたしました。

建物や設備については、開設して20年以上が経ち、修繕の必要性が増え、修繕できないものに関しては、買い替えなければならない状況となりました。

さらに、今後の人材不足や人件費抑制等を見据え、職員の働きやすさと更なる業務の効率化を考え、法人としてICT化を促進することとなり、そのための初期投資費用もあり、つきみの園グループ全体として令和3年度は赤字になりました。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症流行は収まりませんが、令和4年度は、各サービスの中身だけでなく、ハード面で改修等に向けて取り組むことが課題となります。

(1) 施設サービス部（介護老人福祉施設+短期入所生活介護）

当施設は300人超の待機者を抱えています。すぐには埋まらない状況があります。特に新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、ご家族の面会等が制限される中では、入所を控える、また、入所前の施設等で感染者が出ている時期ではすぐに入所できない等がありました。

特養ご利用者の体調変化に応じ、随時、嘱託医等へ相談ができることで、住み慣れた施設内でお過ごしいただくこと、病院への入院等にならないような体制づくりを行い、希望されるご家族に対しては看取り介護を引き続き行いました。

しかしながら、必要な入院等は必ずあるため、空床が出て短期入所利用者で埋めるという流れは、慢性的な短期入所利用希望者の減少もあり、難しくなっています。このような状況は東京都全域に及んでいます。感染症流行のたびに短期入所事業の一定期間休止したことによるその後の影響も大きく従来型特養併設の難しさがありました。

(2) 地域サービス部

① 通所介護事業

サービス利用を控える利用者は昨年同様にいらっしゃり、前年度よりも稼働は低迷しました。その中でも総合事業については、前年度よりはサービスの必要性を実感いただき、稼働は上昇しました。

一般通所では新たに、栄養アセスメント加算の取得を行いました。

感染予防対策からセンター内での活動は一定の距離をとって行う関係から、営業活動を自粛し、利用人数をあえて増やさず、センターの営業は続けていました。しかしながら、感染の流行がこのまま続くようであれば、経営的にも非常に厳しい状態が続くため、令和4年度には営業活動を再開してまいります。新たな加算取得への取り組みをしてまいります。

② 地域包括支援センター

感染症流行に伴い、介護予防活動支援事業はなかなかできない状況が続き、昨年度後半からその影響が大きく出て、今年度は新規相談件数が増加しました。

地域で暮らしている高齢者の年齢も高く、また、家庭内が複雑化している、身寄りがないなど、相談の際には時間を要するケースも多々あります。

特に生活支援体制整備事業については、課題も多く感染症流行の中で新たな取り組み方が求められてきています。職員を増員するだけでは解決には至らないのが現状です。

③ 訪問介護事業所

ここ数年、事業の伸びを見込んで人員増を行ってきましたが、単独事業としては赤字だったため、人員削減し単独で事業が成り立つようにいたしました。収入面で、感染症流行に伴うサービス利用控えや重度の方の施設入所などの影響の方が大きく出ました。

令和4年度に向けて新たな加算を取得するため、法人としてICT化に取り組み始めました。

④ 居宅介護支援事業所

職員を増やし、地域の中でも比較的大きな事業所となりました。特定事業所としての役割が果たせるよう定例ミーティング等で計画的な研修、事例検討などに力を入れました。

年度後半にかけて、法人内での人事異動の関係から引き継ぎや介護ソフトの入れ替え等で、新規受け入れが難しくなり、年度前半の件数を保つことが出来ませんでした。